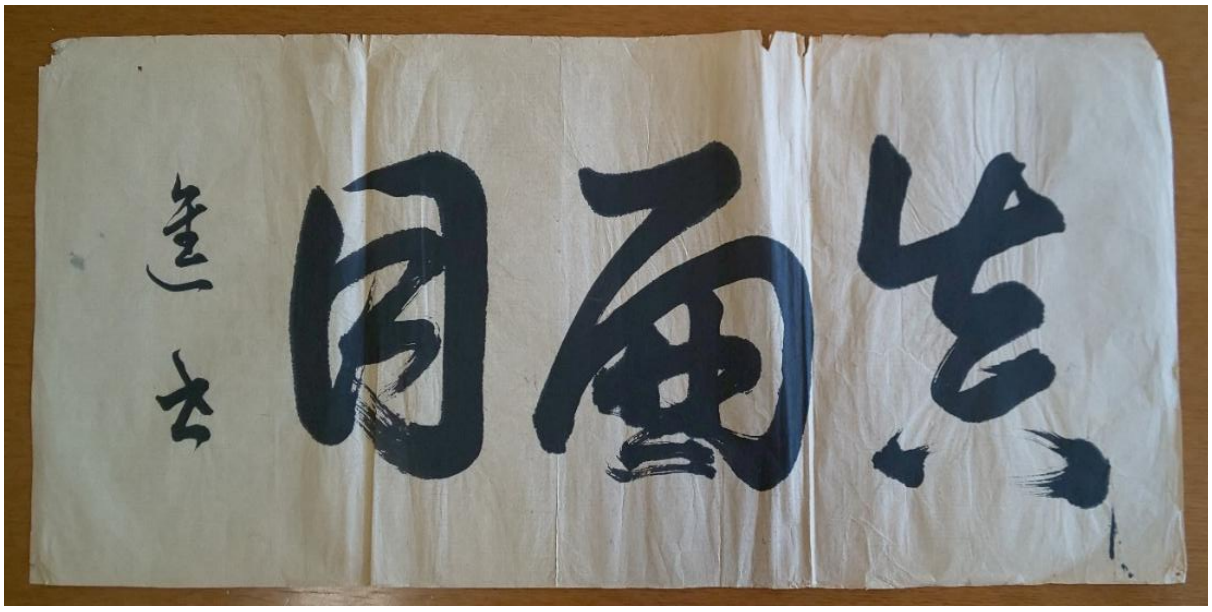
Y校アーカイブ　vol. 11　「真面目」

図書館に入ってすぐのカウンターの上に、青銅色の盾があります。昨年度の社会科で、この盾の文字がクイズの答えになっていた授業があったので、見たことがある生徒も多いかと思います。達筆すぎる文字を読めた生徒はほんの数人でしたが、これは初代校長の美澤進先生が書かれた「真面目」という書を、創立百周年の際に記念品として盾にしたものです。今回は直筆の書も合わせてご紹介します。





真面目　進書

現在はこの文字は「まじめ」と読みますが、明治の当時には漢語のままの読み方で「しんめんもく」もしくは「しんめんぼく」と読んでいました。今でもＹ校関係者はこの盾などを見ると「あぁ、しんめんぼく、ね」と言います。

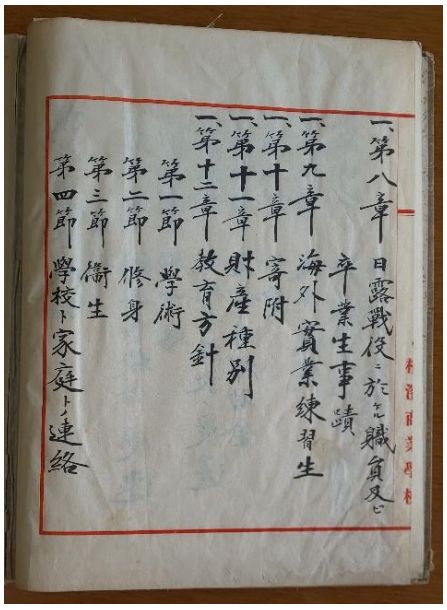
同じ書が校長室にも額装されて掲げられています。図書館には三枚の書が残っており、美澤先生が何度も何度も心をこめて書かれたことがうかがえます。しんめんぼくとは、真の面目、本来の面目、つまり他から見られたほんとうの姿ということでしょうか。創立して140年が経った今も、美澤先生がのこされた言葉のままに、Ｙ校生たちはまっすぐに、真面目に、毎日を送っています。

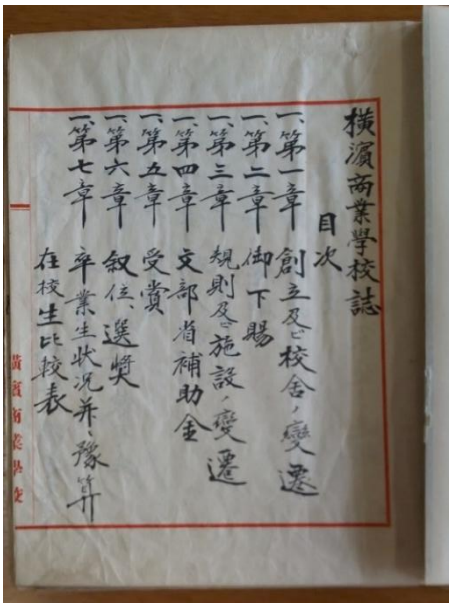
Y校アーカイブ　vol. 12　「横濱商業學校誌」

今回のY校アーカイブは、Y校30周年時に作られた「横濱商業學校誌」です。明治15年（1882年）の設立から明治45年（7月より大正元年）（1912年）までの30年間の記録です。布張りの表紙に紐で綴じられていますが、紐は劣化してしまったのか結び目が無い状態です。同様の装丁の「横濱商業學校誌附録」には紐も残っています。大きさは縦30㎝、横25㎝、厚さは3㎝ほどあります。附録の厚さは2㎝です。第一章の「創立及び校舎の変遷」に始まり、第十二章の「教育方針」まで、目次以下74ページにわたり、Y校の30年間の記録が美しい手書きの文字で原稿用紙にしたためられています。 各章には薄紙で守られながら挟み込まれた写真が全部で20点あり、当時の様子をうかがい知ることができます。



横濱商業學校誌附録　　横濱商業學校誌





目　次



左は明治 22 年築、右奥は明治 31 年築の校舎



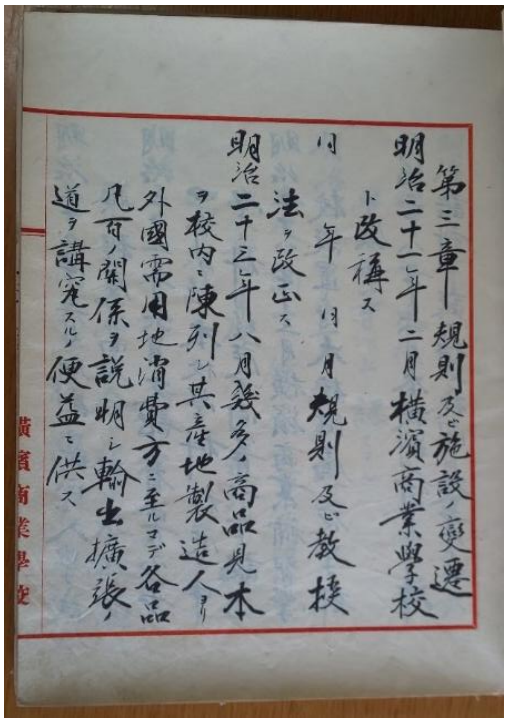
背景には清水ヶ丘が見られます

第三章「規則及び施設の変遷」に「商品陳列室」の写真がありました。

「明治二十三年八月幾多の商品見本を校内に陳列しその産地製造人より外国需用地消費方に至るまで各品およそ百の関係を説明し、輸出拡張の道を購究するの便益に供す」とあります。 現在Y字棟4階にある「商品実験室」にその名残が見られます。



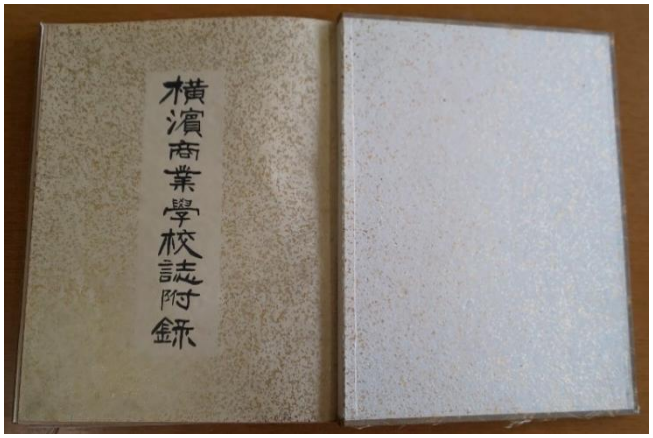
商品陳列室

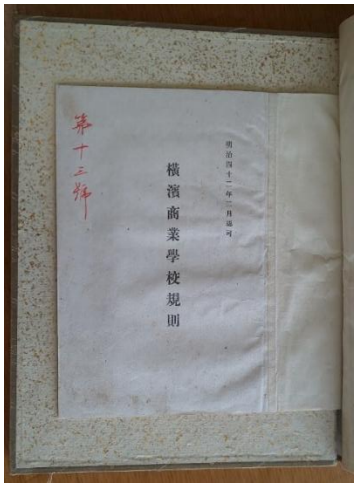


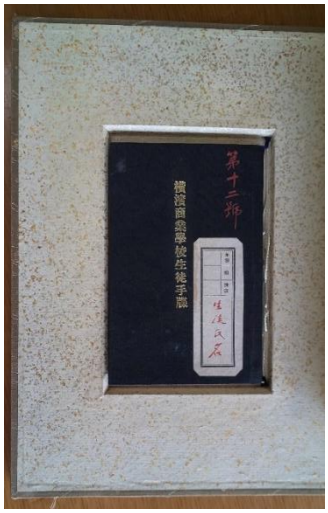
規則及び施設の変遷

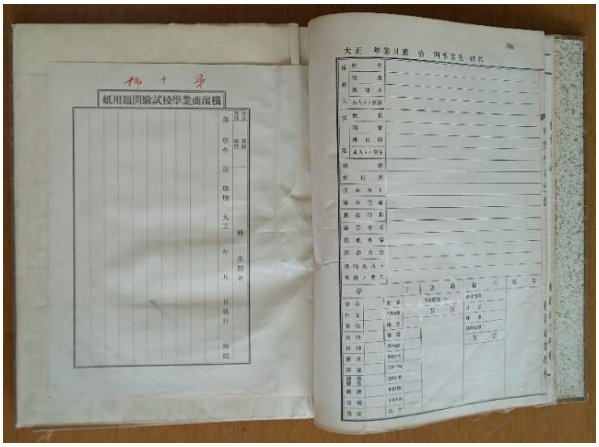
附録には、学校で使用している出席簿や試験問題用紙などの書類の様式が綴じられています。

裏表紙には生徒手帳がすっぽりと収められていました。









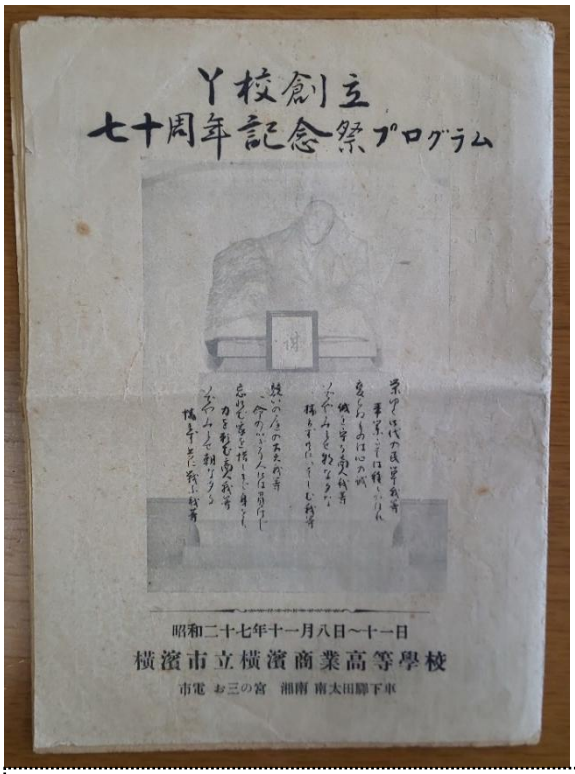
Y校アーカイブ　vol. 13　「Y校創立七十周年記念祭プログラム」

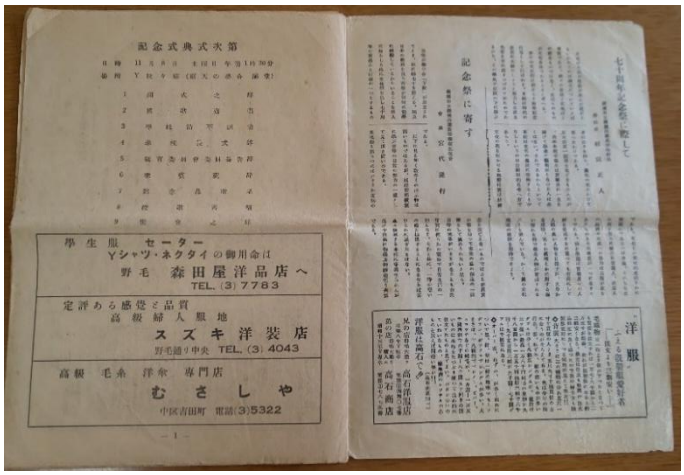
今年はY校創立140周年です。今回のY校アーカイブでは、その半分の、70周年のときの文化祭の様子がわかる、「Y校創立七十周年記念祭プログラム」を紹介します。

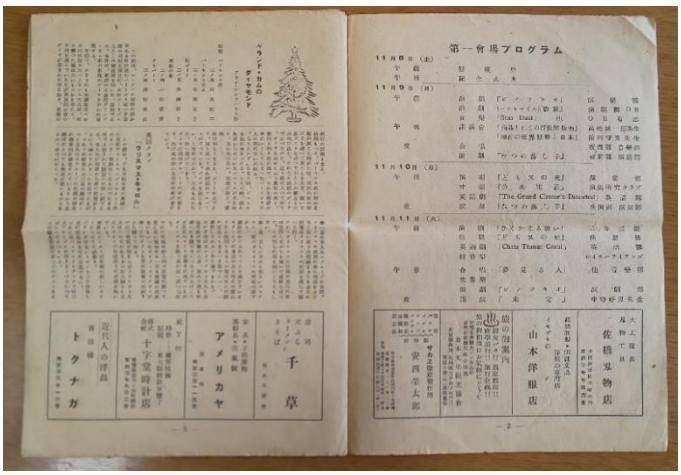
昭和27年11月8日より11日まで、4日間にわたって開催された文化祭は、戦後間もないこともあってか、初日の午前中には慰霊祭が行われています。午後は70周年の記念式典が行われ、2日目以降は校内を3つの会場に分けてさまざまな企画が催されています。

第一会場の講堂では、劇や音楽関係の発表だけでなく、先生方の講演会も行われています。第二会場は文科系の部活動の発表を中心に、普段の学びの成果の発表の場にもなっていたようです。第三会場では卓球、テニス、バレーボール、バドミントン、軟式野球、サッカー、ホッケー、硬式野球、ラグビーの試合が行われています。

広告が54件も掲載されていて、Y校が地域と深くかかわっていたことが感じられました。











七十周年を迎えたことが新聞記事になっています

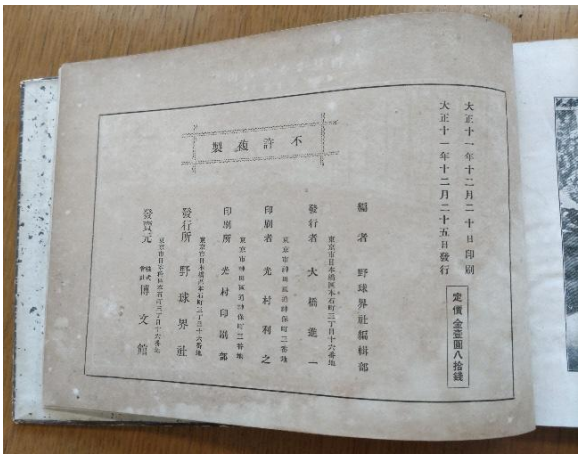
毎日新聞　昭和二十七年四月十日付

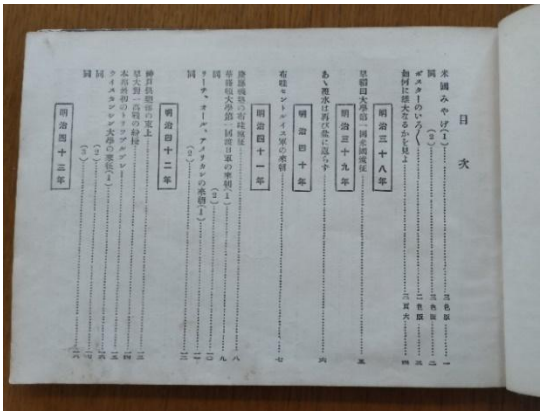
Y校アーカイブ　vol. 14　「野球歴史寫真帖」

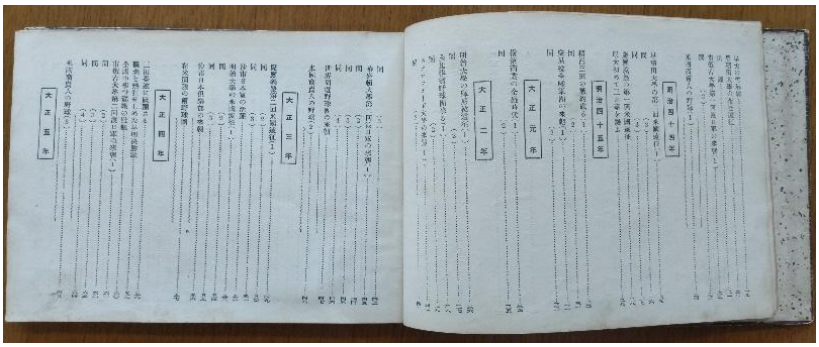
野球好きの方には垂涎の一冊をご紹介します。大正11年12月に発行された「野球歴史寫真帖」は、明治38年から大正7年までの学生野球を中心とした、全104ページの写真集です。横22.3㎝、縦15.5㎝、厚さ1.2㎝ほどの大きさで、紐で綴じられています。金額は「定價　壹圓八拾錢（1円80銭）」とあります。 現在に置き換えると 4800円くらいでしょうか。発行元は「東京市日本橋區本石町三丁目」にあった「野球界社」で、現在日本橋コレドがある辺りに会社をかまえ、明治44年の9月から昭和17年12月まで「野球界」という雑誌を月2回発行していたようです。印刷会社と発売元の会社は現在も存続しています。

この「野球歴史寫真帖」は、国立国会図書館デジタルコレクションにも上がっていますが、冒頭のカラーページは白黒になってしまい、欠けたページもあり、見開きをさらに拡げた「如何に雄大なるかを観よ」というく米国商売人グラウンドの大観＞を現したページもすべてが見られず、その雄大さをつかめません。美しく残されているY校の資料はとても貴重です。

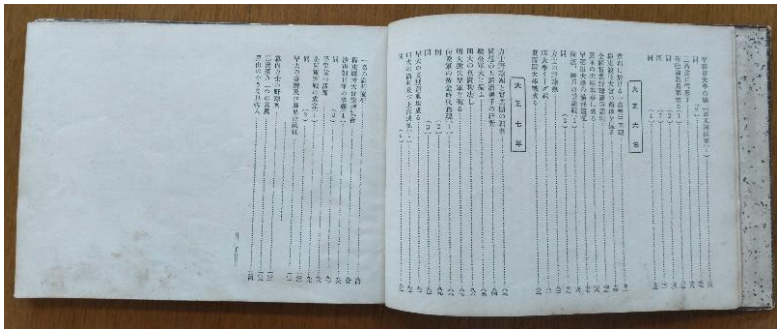












巻頭の４ページのみがカラー写真です。

目次のタイトルからは、明治38年から大正7年までの野球の繁栄の様子が伝わってきます。

見開きを、さらに観音開きにした、約61.5㎝のパノラマ写真です。文字が右から左へと書かれているため、読みにくく感じるコメントには「圖は有名なる紐育ポローグラウンドの全景であって守れるはセントルイス・カーデナル、攻むるは本年の世界選手権獲得チーム紐育巨人軍。其の廣さは優に我が早大グラウンドの二倍もあると云ふ。然るに彼の有名なる本壘打王ベーブ・ルースの一打は屡遥か外野に見ゆる旗の上を二三間もライナーでオーバーするとか此のグラウンドと共に彼の猛打は米國球界の誇りとするに足るであらう。」とあります。



横濱商業の全盛時代 （1）、（2）＜大正元年より同二・三年まで＞　34、35ページ

右ページには、後の大正12年から13年にかけてＹ校第二代目の校長となる唯野先生を中心に、12名の選手が、ポジションと名前入りで掲載されています。袖にＹのマークが輝くユニフォームには襟がついています。

左ページには「此の時代の横商は實に強かった。大正元年の十月廿日、慶應と一對零の接迫戰を演じて敗れたが、同廿七日には四對三で早大を破り、十一月十日には慶應と再び十三回の延長戰を演じた末、三對三の引分に終るという風で。圖は即ち横濱に於ける對慶應二回戰の寫眞で上圖は石川慶應投手の打撃、下圖は加藤横商首將の打撃である。」と書かれています。（一部句点を追加しました）



他のページには、慶應や早稲田、明治などの大学の対抗試合の様子や、沙市（シアトル）、市俄古（シカゴ）、布哇（ハワイ）、麻尼拉（マニラ）などからの遠征試合の様子や、ちょんまげのカ士野球団の写真などが掲載されています。

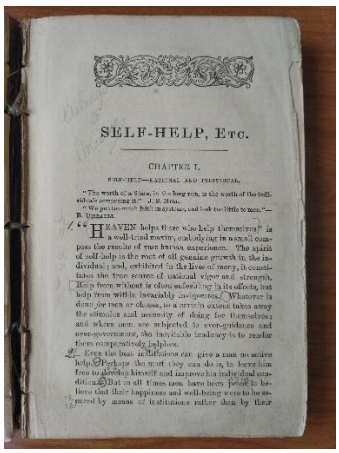
Y校アーカイブ　vol. 15　「美澤先生の『SELF-HELP』」

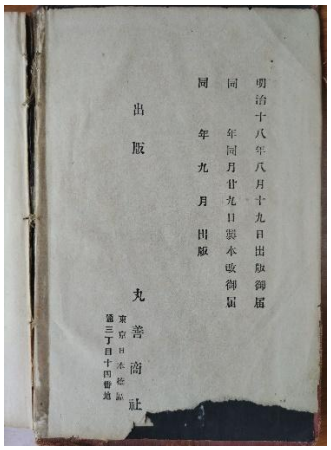
古い学校誌などを見ていると、「美澤先生は『セルフ･ヘルプ』を原書で講和されていた」といった記述が何度も出てきます。その、Y校初代校長の美澤進先生が実際に使用していた『SELF-HELP』という本が図書館に残されています。どなたかが後にテープなどで補修した跡がありますが、美澤先生が書かれたのではと思われる書き込みがところどころにあり、書体や紙の手触りなどに歴史の息吹を感じます。奥付には明治十八年八月十九日出版御届、同年同月廿九日(29 日)製本改御届、同年九月出版 丸善商社 東京日本橋區(区)通三丁目十四番地 とあります。

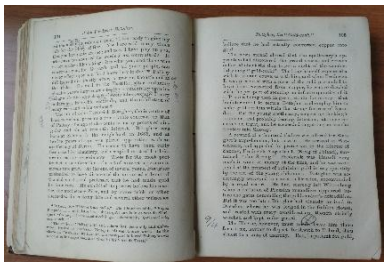
こちらをそのまま貸し出すことはできませんが、洋書コーナーに Samuel Smiles『SELF-HELP』(159 S 洋書)がありますのでご活用ください。翻訳版は、1871 年出版の中村正直訳が金谷俊一郎によって現代語訳版となった『西国立志編』(159 ス新書)と、2016 年出版の久保美代子訳『新･完訳 自助論』(159 ス)があります。

『西国立志編』は、美澤先生が講義されていた頃には福澤諭吉の『学問のすゝめ』と並んで「二大啓蒙書」と言われ、当時のベストセラーとなっていたようです。「天は自ら助くるものを助く」という言葉から始まり、歴史上の人物の成功談をもとに、自立して生きていくことについて説いている本です。 商いについて、金銭について、仕事について、家庭について、誠実であることについて、など、いまの Y 校生の心にもそのまま響くような言葉がちりばめられています。







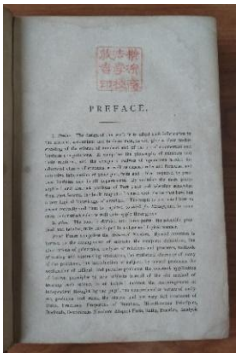




『SELF-HELP』と一緒に商業関係の本が 3 冊保管されています。右の 2 冊は『THE BRYANT AND STRATTON BUSINESS ARITHMETIC(1877,1889)』、左は『THE CRITTENDEN COMMERCIAL ARITHMETIC(1883)』、商業算術や統計学に関する本で、中を開いてみると、実践的な問題や参照表、小切手の見本などがありました。1854 年にニューヨークで商業大学を設立したブライアント＆ストラットンの著書である一番右の大きな本の最初のページには「三菱商業學校蔵書」と「拂下證(払い下げの証し)」いう印が捺されています。その次のページには、「横濱商法學校蔵書印」が捺されています。Y 校に校長として呼ばれるまで三菱商業學校にいた美澤先生が、前任校で除籍となった本を携え、新たな蔵書印を捺されている姿が浮かんできます。





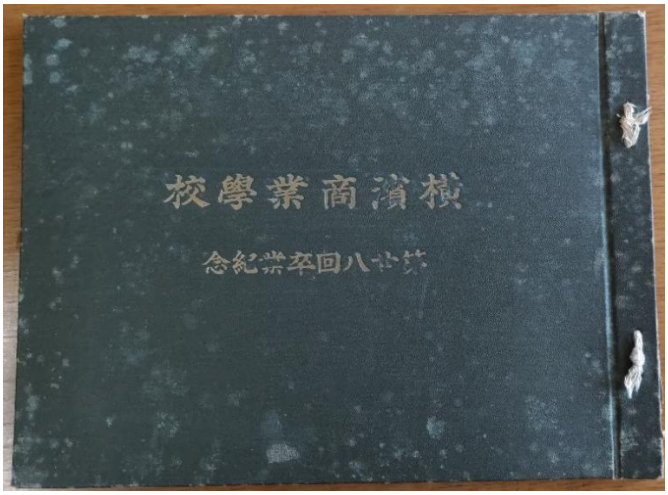


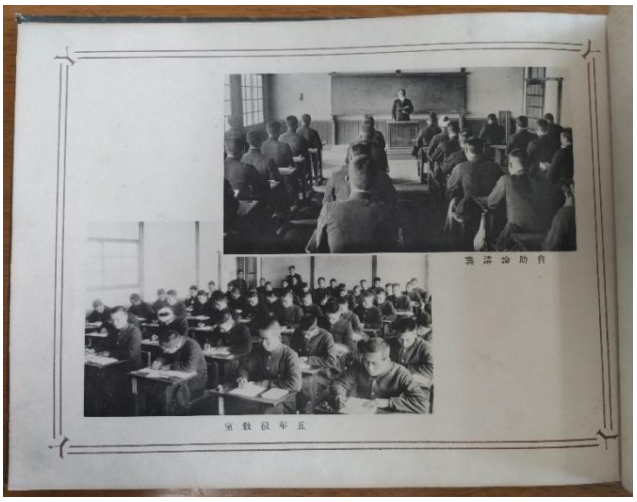
Y校アーカイブ　vol. 16　「卒業アルバム　大正編」

春のはじめの佳き日に、卒業式が行われました。校長先生、PTA 会長さん、在校生代表、卒業生代表のどの言葉も心にしみて、会場全体があたたかな気持ちに包まれていました。

図書館には、Y 校の卒業アルバムが収められています。古いものは欠けている年度が多いのですが、時代を知ることができる貴重な資料として大切に保管されています。今回は大正時代のものを紹介します。

大正５年（1916年）のものが一番古く、中には初代校長の美澤先生が前号でお伝えした『自助論（セルフ・ヘルプ）』の講義をされている写真が掲載されていました。アルバムの大きさは横 27cm、縦 20cm、厚さ 1cm、えんじ色の線とＹの文字でトリミングされた紙が 18 枚綴られており、55名の卒業生がいろは順に並んでいます。







大正5年当時の校舎全景と校訓



職員一同



勉強する生徒の様子

大正13年3月のアルバムには、前年9月の関東大震災によって倒壊した校舎の様子が載っています。2年後の大正15年の剣道部員の写真の背景には工事中の新校舎が写っています。

あいだの大正14年のアルバムには、Y のマークの着いた制帽を被った生徒や、着物姿の生徒もいます。



大正13年 関東大震災により倒壊した校舎



大正14年の卒業生



大正15年 鉄筋コンクリート3階建て建築中

Y校アーカイブ　vol. 17　「絵はがき」

「Y校六十週年記念繪端書」は、昭和17年のY校60周年記念の際に、横濱市立横濱商業學校(Y校)と横濱市立横濱商業専門學校(Y専:現在の横浜市立大学)との連名で出された記念品です。

「初代校長美澤進先生の写真と校訓10則」、「昭和17年当時の校舎(南太田)」、「明治32年の校舎(北仲通六丁目)」の3枚の絵はがきが収められています。大きさは14cm×9cm、臙脂色と銀色でトリミングされたカバーも凝っています。



カバーの表に

Nov.1942 Memorial cards of the 60th Anniversary of Yokohama Commercial College and Yokohama Commercial School.

美澤先生と校訓のカードには

Mr. Susumu Misawa, the Founder and the 1st principal of this school, and his school instructions written in Dec.1887.

1.Honesty 2.Diligence 3.Exactitude 4.Precision 5.Regularity 6.Discrimination 7.Rapidity 8.self-restraint 9.Endurance 10.Carefulness

と英文に訳した文面の書き込みがあるものも数点あります。

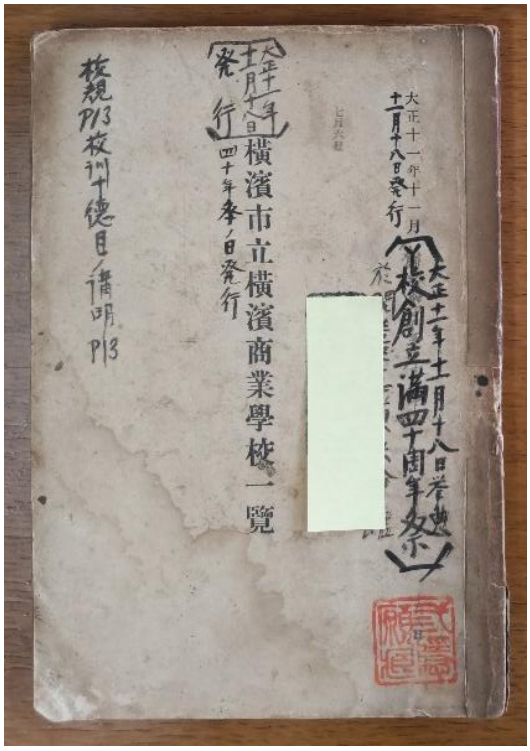


また、Y校卒業生の南信一郎さんによる写真集『青いドームのある校舎』(376ミ) の美しい写真が10枚の葉書となっている「マルテン校舎のエハガキ」では、昭和61年(1986年)に建て替える前の校舎が見られます。青いドームは現在も螺旋階段の上にありますが、以前の校舎ではマルテンと呼ばれて親しまれ、今より大きな存在感をもって重厚なレンガ造りの校舎の上に姿を見せていたようです。



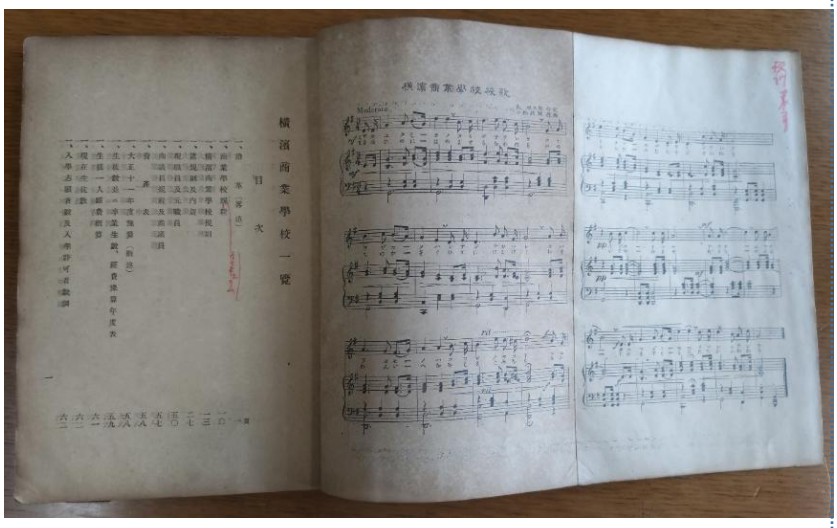
Y校アーカイブ　vol. １８　「横濱市立横濱商業學校一覧」

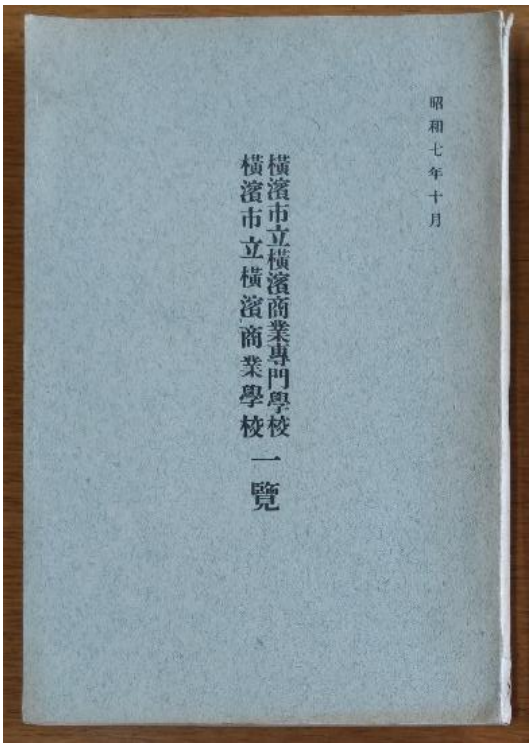
「横濱市立横濱商業學校一覧」は、学校の沿革から始まり、学則や生徒数、職員の名前や卒業生の状況、教育課程や設備の概要など、学校のあらゆる情報をまとめたものです。図書館で保管されている中で一番古いものは大正11年11月に発行されたもので、大きさはちょうどＹ校生の持っているスケジュール帳ほどの約22cm×15cm、厚みも1cm弱と同じくらいです。全160ページから成り、70ページから76ページまでの7ページを使って図書の貸出規則や図書貸出作業などにあたる事務員の内規として図書の注文や受入れを行うこと、閲覧室の整理整頓を行うことなどが詳細に書かれていました。



大正11年版

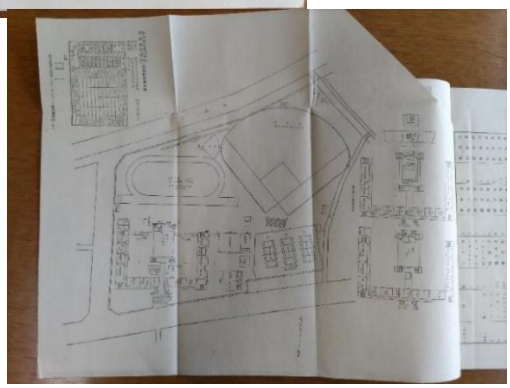
ピアノ伴奏譜もある校歌の裏面は校訓です





昭和7年版　当時の校舎全景と、校舎平面図です





Y校アーカイブ　vol. 19　「乃木希典による表忠碑の揮毫（きごう）」

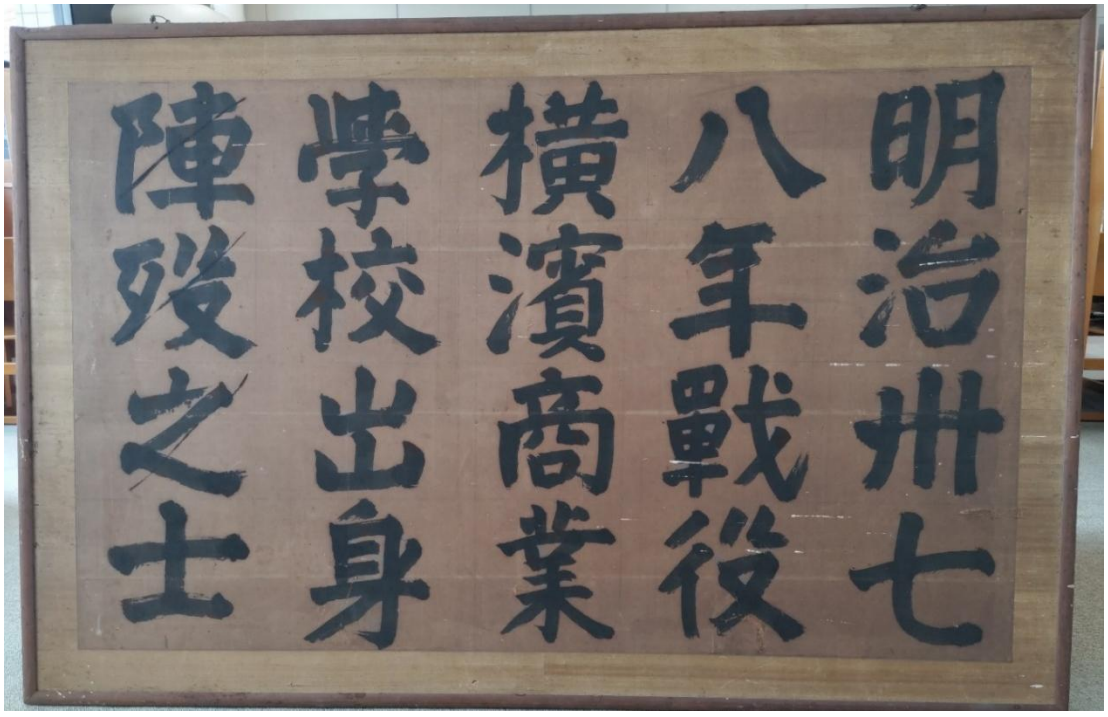


京浜急行の日ノ出町駅やJR桜木町駅にほど近い伊勢山皇大神宮の境内に、明治37，38年の日露戦争で亡くなった12名のY校出身者のための慰霊碑が建立されていますが、その経緯がY校の初代校長のことを記した『美澤先生』(Y289 ヤ)という本に詳しく書かれていました。その概要は、『同窓会で慰霊碑建設の議が起こり、戦死者の多くが従軍していた第三陸軍の乃木希典大将に揮毫を依頼しようと決まって、美澤先生が乃木家を訪問した。はじめは行書で「忠魂碑」と書いてもらったものの、神社に「魂」の字は困る、となり、「表」の文字だけ書き直してもらおうと再度乃木家を訪れたところ、「それは筆力が統一せぬばかりか、正気が整わぬ故、全部を書き改めましょう」と今度は篆書（てんしょ）にて「表忠碑」と書いてもらった。しかし署名がなかったことに後から気づき、三たび乃木家を訪れて「希典書」の文字を入れてもらった』ということでした。

今回紹介するのは、その表忠碑の上部の「乃木希典直筆の書」です。縦に四文字ずつ五行に渡って「明治卅七八年戦役横濱商業學校出身陣歿之士（めいじさんじゅうしちはちねんせんえきよこはましょうぎょうがっこうしゅっしんじんぼつのし）」と書かれています。乃木希典の揮毫による日露戦争戦没者の慰霊碑は、字体もさまざまに日本全国に点在しているようですが、鶴見の花月園競輪場跡地にある「明治卅七八年戦役記念碑　希典書」と書かれた慰霊碑とほぼ同じ字体と思われます。軽い木枠の大きさは、縦112cm、横172cm、中の書は縦83cm、横153cmです。

気になるのは最後の行にある「陣没之士」の三文字に斜線が引かれていることです。斜線の墨の色が少し鮮やかなので、後年に加えられたものだと思われます。「陣没」とは病死なども含め戦死することをいいますが、なにかそこに引っかかるものがあった人が思わず斜めに線を走らせたのでしょうか。

『Y校百年史』に掲載されている写真にもすでにこの線が引かれているので、少なくとも 41年以上前のいつか、どのようなドラマがあってこの線が引かれたのか、今となってはわかりません。

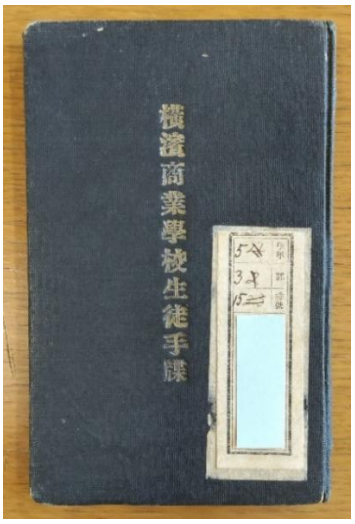


明治卅七八年戦役横濱商業學校出身陣歿之士

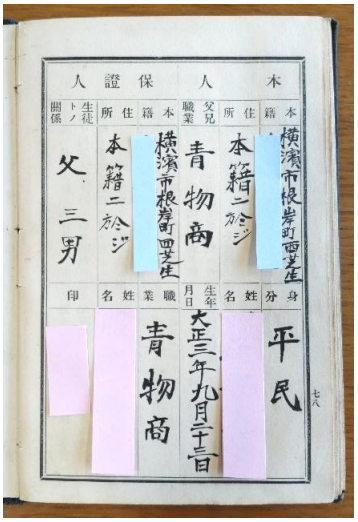
Y校アーカイブ　vol. ２０　「生　徒　手　帳」

昭和2年から昭和7年の間に在席した生徒の「生徒手帳」です。 昭和57年に卒業生ご本人より寄贈されました。 縦約15㎝、横約10㎝、厚みが8mmほどの手帳で、表紙には「横濱商業學校生徒手牒」とあり、記名のための紙が貼られています。表紙をめくると、「朕惟フニ我カ皇祖皇宗国ヲ肇ムルコト……」から始まる勅語があり、詔書が続いた後に「校訓」が記されています。最後のページには持ち主ご本人の本籍及び住所や姓名とともに「身分」を記す欄があり、「平民」と書かれていることに時代を感じます。

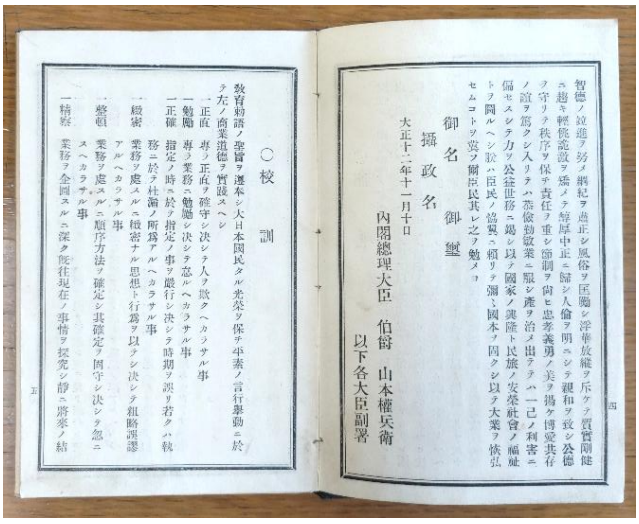
表紙



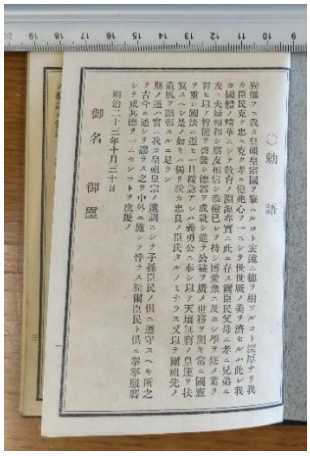
青物商は現在の八百屋さん



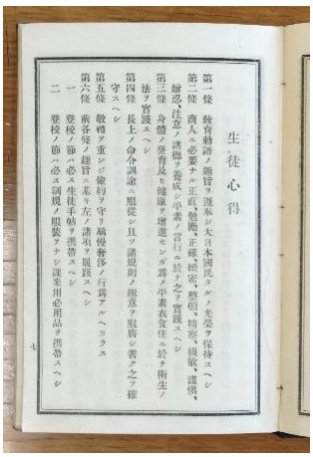
校訓のページ



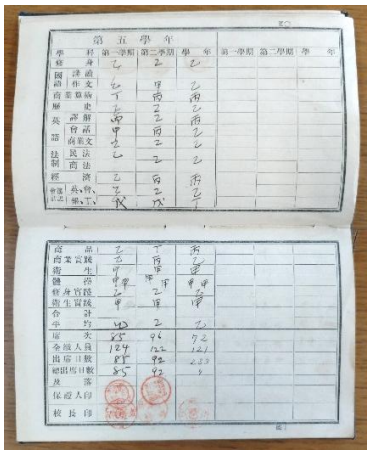
勅語のページ



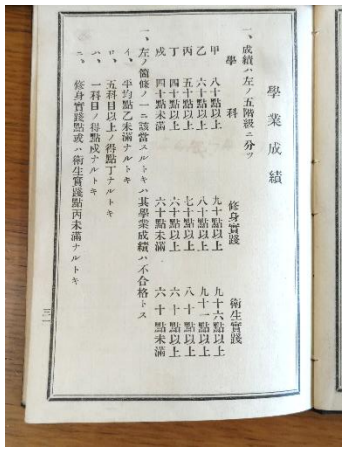
生徒心得



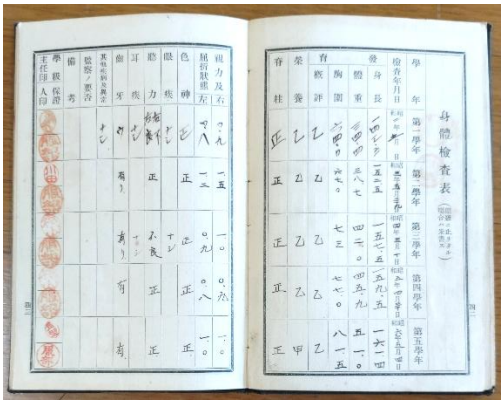
成績が生徒手帳に



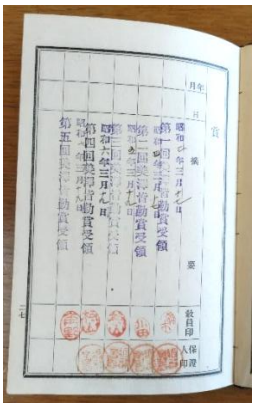
成績は　甲乙丙…



健康診断の結果



毎年美澤皆勤賞　5年間で一度だけ体育を見学



授業料は年間で35円

